

## ごあいさつ



●小児科  
貝沼 圭吾先生

4月から約2年間三重病院を離れ、厚生労働省に赴任することになりました。医師になって11年間、患者さんと共に時間を過ごしてきました。臨床の現場を

離れ、行政という立場で、『様々な疾患と共に生活をされる皆様が、よりよい生活を送るためにできることは何だろう』ということを実を日々考えながら仕事をさせていただくこととなります。

私自身は、『疾患を持つ子どもたちが、できるだけ制約を感じることなく、疾患と共に生き、自立するまでのお手伝いがしたい』と考え、小児科医を選択しました。5年前に小児科専門医を取得後、慢性疾患を中心とする三重病院を希望して着任し、糖尿病、肥満、アレルギー疾患を中心に担当させていただきました。

これらの疾患はいずれも子どもたち、そしてまた見守る保護者の皆様の毎日の生活に直結するものです。例えば、1型糖尿病やアレルギーでは、疾患そのものために生活になんらかの制限を受けますし、肥満や2型糖尿病など、疾患の進行を防ぐために自ら生活に制限を必要とするものがあります。この5年間では、子どもたち・保護者の皆さんがおか

れる環境、疾患に対するそれぞれの向かいあい方など、臨床を通じて多くの経験を頂戴しました。と同時に、子どもたちがもっと楽しく気軽に生活するためにはどうしたらいいのだろうと考えながら、日々の診療だけでなく、1型糖尿病・肥満・アレルギー児を対象とする各種キャンプや『こども健康教室』と題した市民公開講座をスタッフとともに知恵を出し合い、企画運営してきました。みなさまの生活の一助になっていればとてもうれしく思います。

もう一つ感じてきたことは、『疾患を持つ子どもたちを取り巻く社会が、こうなったらいいのに』という思いです。住んでいる街、子どもが多くの時間を過ごす学校、そして何よりも家庭、子どもを取り巻く環境は“もっとよくできる”と信じています。この点こそが、4月から私に与えられる役割となります。この5年間で培った経験と感性を生かしながら、自分に何ができるのか、自分に託された責務は何かと常に自問自答し、『子どもたちの環境をもっとよくする』ために仕事をしていきます。

最後に、急に三重病院を離れることになり、担当する子どもたち・保護者の皆様に驚きと動揺を与えてしまったことをどうかご容赦ください。また2年後に三重病院に帰ってきます。私も一回り成長してきました(体ではなく)ので、皆さんも心身ともにたくましく成長し、どこかでお目にかかれる日を楽しみにしています。5年間ありがとうございました。

## 三重病院の サラメシ

9

### ～ 1 病棟 整形外科 編 ～

1病棟は整形外科の病棟です。看護師は3交替勤務。昼休みも5種類あって時間差でとります。

主婦が作る力作から昨日の夕飯の残り、コンビニ弁当と様々です。こんな弁当見たことないというような大きなタッパーに鍋の残りをどっさり入れてくる痩せの大食いもいます。

みんなで楽しくランチしています。

(看護師長 大本 恵子)



食のプロ(夫)が作った

分かりにくいとは思いますが、これ大きいんです

お昼に自家製ピザ!